

EAJRS conference in Leuven(17-20 September 2014)

東日本大震災における紙文化財 の保全活動

— 現地の救出活動と下張り文書の解体処置 —

東京大学史料編纂所
史料保存技術室（修理担当）
山口 悟史2011年5月13日撮影

宮城県気仙沼大島漁協組合の被災資料 救出活動

2011年3月11日午後2時46分 M9.0

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生

2011年5月上旬

神奈川大学日本常民文化研究所と同大学大学院
歴史民俗資料学研究科による「気仙沼大島被災
資料救出プロジェクト」発足

※日本常民文化研究所と気仙沼大島の関係は、網野善彦
著『古文書返却の旅』を参照

被災資料の保全活動の流れ

- ①初動(現地で作業するまでの事前準備)
- ②救出作業(現場から被災資料を搬出)
- ③一時保管(仮置き)
- ④安定化処置(乾燥処置・洗浄処置...)
- ⑤修復処置(専門的な高度な処置)
- ⑥安定保管(安定空間での保管)
- ⑦返却・公開(被災資料を「活用」する)

①～④までは緊急を要する処置。











← 救出作業
(回収作業)



安定化処置とは...

安定化処置（水損資料の乾燥処置）

- ・ 自然乾燥
- ・ 送風乾燥
- ・ 吸水乾燥
- ・ 低温低湿乾燥
- ・ スクウェル手法
- ・ 凍結乾燥
- ・ 真空凍結乾燥

準安定化処置（乾燥処置以外）

- ・ ドライクリーニング
- ・ 洗浄作業
- ・ カビ害防止
- ・ (塩水含浸)



←送風乾燥





←カビ防止作業



吸水乾燥→



← 自然乾燥



現地作業のその後...

- ・ 環境変化によるカビの増殖、湿気の再吸着
- ・ 安定保管空間の確保困難



完全乾燥処置を目指し、奈良文化財研究所へ移送し、真空凍結乾燥処置



現地にて、ドライクリーニング作業を実施中

下張り文書の解体処置

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークから襖等の解体の依頼

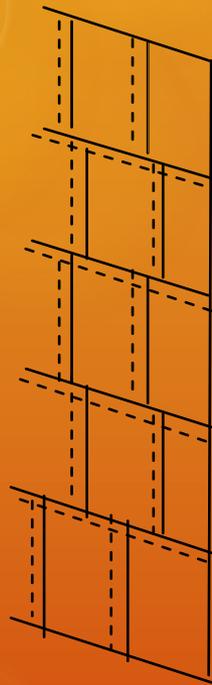
A家→襖4点・屏風2点・袋戸15点

B家→襖18点・額6点・袋戸10点

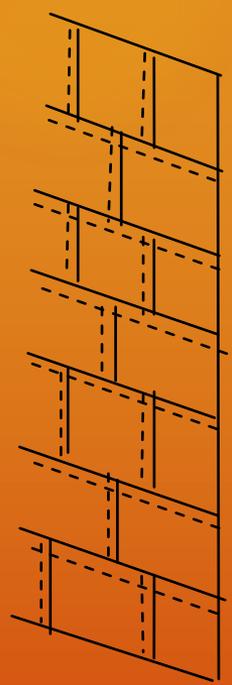
合計55点

下張りの材料となる紙（反故紙）は、依頼側が用意することが多い。個人宅では近世・近代の文書が、寺院では中世文書が使われる。

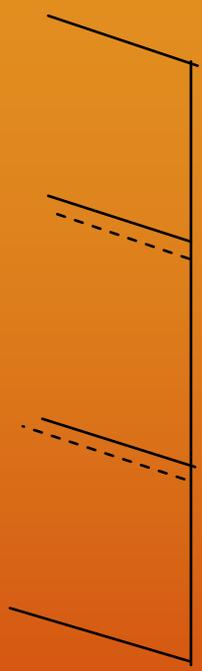
下張りの構造



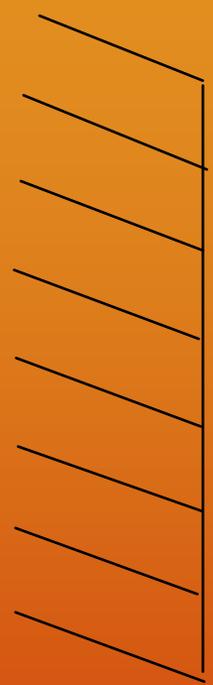
上浮け



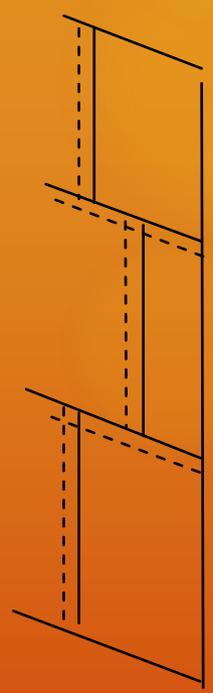
下浮け



蓑縛り



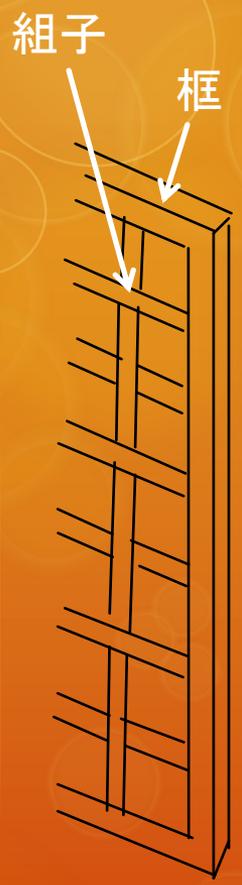
蓑掛け



胴張り



骨縛り



下地(骨)

本紙

上張り

下張り

襖等下張り解体の作業工程

- ①引手・縁の撤去
- ②上張りは取り外す。下張りの状態で框・組子部分に水分を与え、全層をまとめて外す
- ③剥がした下張りに α -アミラーゼ水溶液（0.001%濃度）を塗布し、熱を加えながら、一層目より順に一枚ごとに解体
- ④剥がした文書の洗浄
- ⑤洗浄した文書を層ごとに貼られていた順番に整理

※下張りで隣り合う文書は、関連している場合（もとは冊子や継紙の可能性）が多い。貼られていた順番を崩さずに整理することは、以前のかたちを復元する上で重要な作業である。

←保管状況

解体前→





← 下張り剥離作業



下張り剥離後→



← α -アミラーゼ
水溶液の塗布

解体作業→

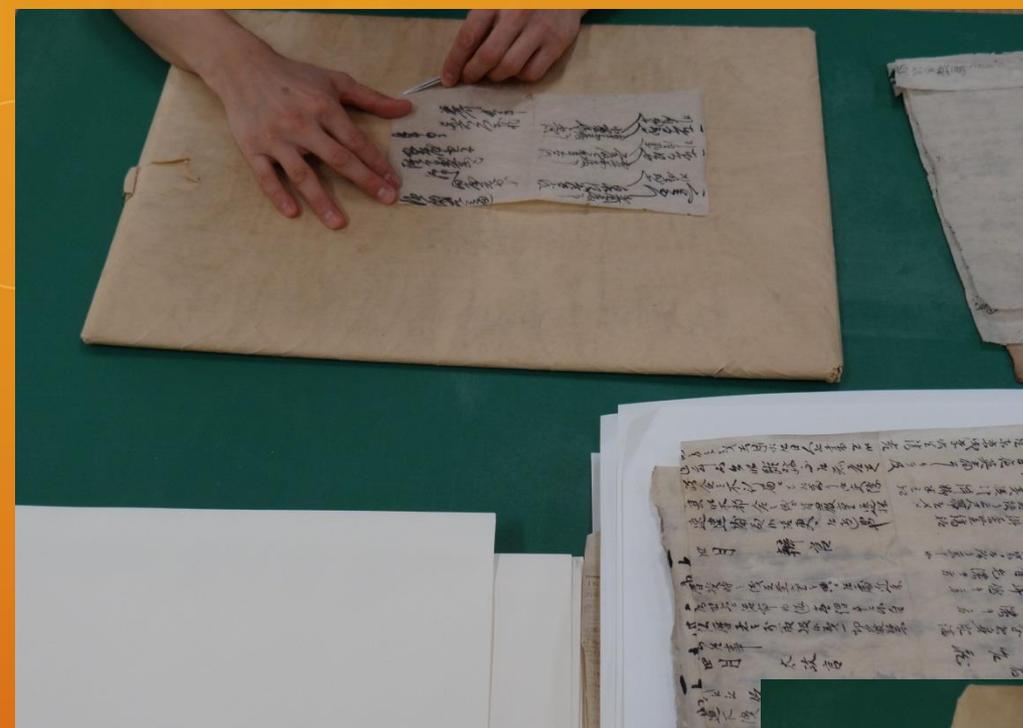




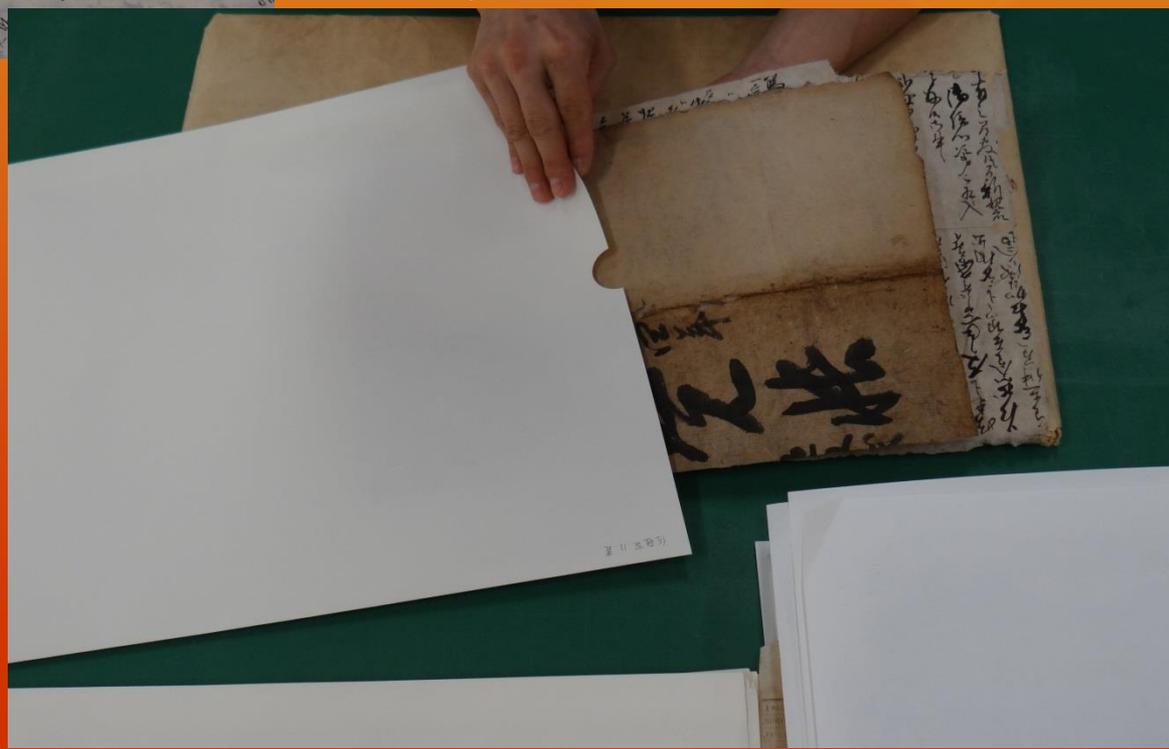
← 洗浄作業

乾燥作業
(敷干し) →





← 整理作業



被災文化財を遺す意味...

文化財は、地域・家・個人がそこに存在した(存在している)「証」である。それは、長い年月をかけて伝え遺されてきたもので、愛着があり、かけがえのないもの。



被災した文化財を救出し、保全・活用することによって、そこに生きる(生きた)地域・家・個人の存在を再確認することができる。そして、それらへの思いを新たにすることで、地域復興の力につながる。

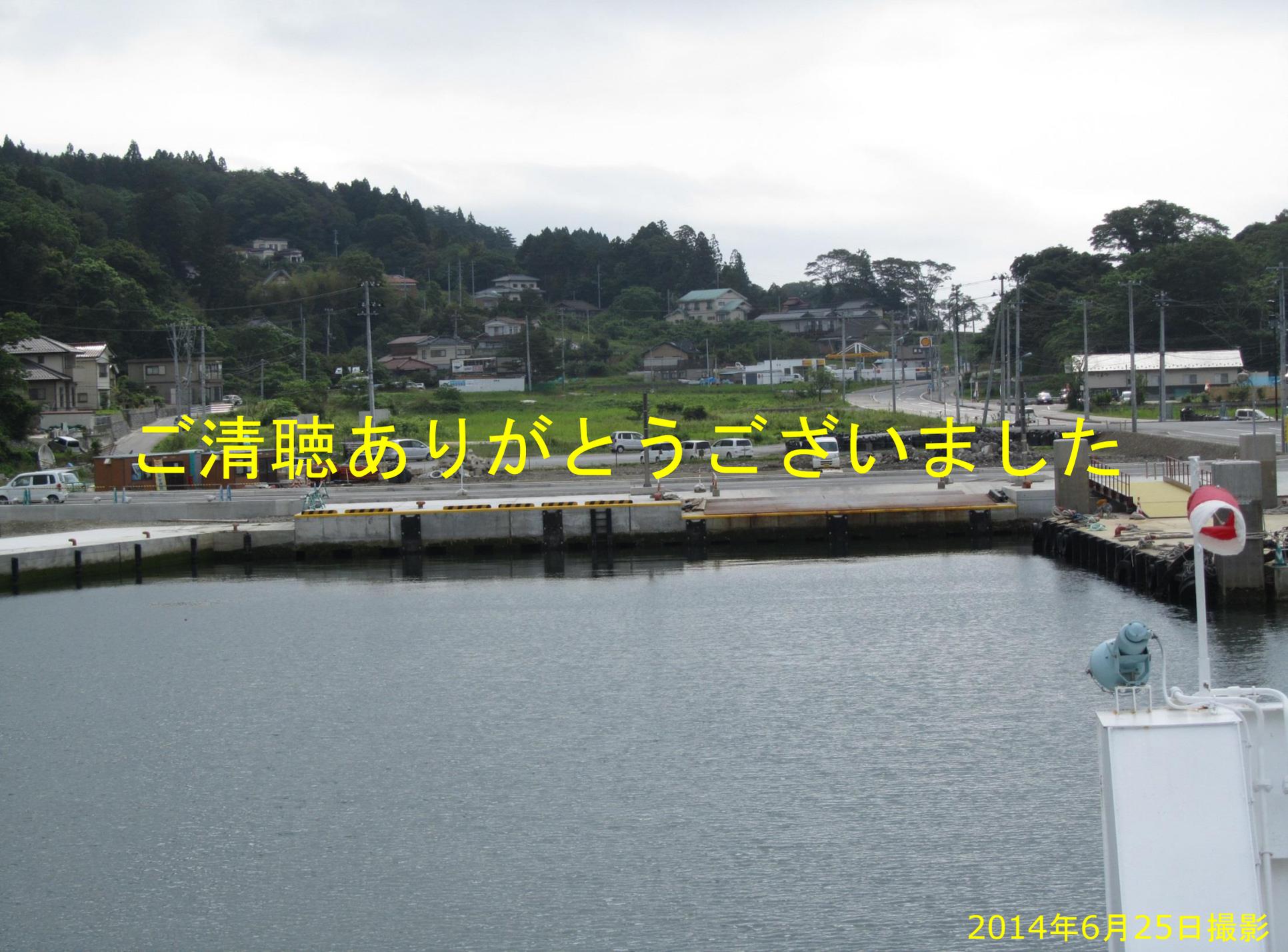
(例) 民俗芸能 → 被災地で積極的に催され、各地へ避難した住民をつなぐ役割を果たしている。

後...



東日本大震災で被災されました皆様に、心より
お見舞い申し上げます。
一日も早く復興されますことを心よりお祈り申
し上げます。

（平成23年3月11日 14時46分18秒
東日本大震災発生後の弊社復旧に際し、関係
各方面から多大なるご支援、ご協力を頂きまし
たことに深く感謝を申し上げます。）



ご清聴ありがとうございました

2014年6月25日撮影